

までも労働者の奮闘の生活と豊富にするこゝに只管努力する。それは経済的の堅実の方針であつて改良主義的傾向を多分に持つものである。

然し今日労働者の要求する政黨は、資本主義の改良政策では満足しないのである。

また議會主義的の社會民主主義的の主張を以つては満足しないのである。日本の人口問題を見よ、日本の軍事上の立場を見よ、農村の窮乏と失業を見よ、日本の労働者として日滿經濟コロソクが如何なるものになり行くか、我々は日本を救ひ、日本の労働者を解放する道は資本主義制度の桎梏から解放せなければならぬのである。あらゆる客觀的状態は資本主義粉砕に進むべく示されてゐる。従つて黨は革命的要素を多分に持つものでなければならぬ。

かく言へばして、我々の主張をよく玩味せず、労働組合は改良主義、政黨は革命主義と短的に機械的に解釋すべきではない。その言ふ處の意味は、労働組合は労働者の生活と豊富にする日帝闘争（改良的）を第一の目的とし、其の發展を通じて根本的解放（總聯合は資本主義粉砕と無産者解放の必須条件と考へてゐる）に進むべきである

と言つてゐるのである。

而して今日の如く切迫せる政治的並びに經濟的状态の下に於ける政黨は、労働組合の如く日帝闘争を通じて根本的の改革をするといふのは逆に、根本的の改革のための全面的に決定的な闘争を第一義に置くべきであるといふのである。

素より日帝闘争を無視してはならぬ。しかし黨は借家人争議やストライキに飛び廻つて（それと不充分に）真に資本主義粉砕の革命的の方略と決心とを遂行せざして、唯だ左翼的言辭を弄してゐるといふ様なことは、重要の政治的モメントに當面しては、何等孤立たない。故に借家人争議やストライキはそれらの經濟團體に一任し（無視するのではない）黨は根本的の、全面的に、決定的な（革命的）闘争に最大の重負を置き戦はれるべきなのであると主張するのである。（従つて黨は労働組合即黨と云ふ様なものでなく、國民的規模に於ける資本主義粉砕の革命的黨をなればならぬ）

それ故に黨と組合はその職分を明確に區別すべきであつて、しかも各々々の職分を